こそらとがお仕情こな日だ

のし感がおり事勢のり本ま

切私大て謝大らまをの様そのだ

さた変今し変れすさ中なう経昨

もちなだてあ仕。せで大で済年

じ仕代らりががはいお厳゜厳様

て事だこまたで、た客し私しに

力にういじ員した更てお労下年陽だのお組え

お今さ考今皆すくピた様かい年イら様まで `年まく

。みをかいて場さがごん

くきおだ様いたい今

感の時かおり事私て `

おのか

願年わえ年様

り意らそす心る客いよ社ち年年

長

ま心のまいおう新

感の

°ら頃たを様ざ明わ

謝ごこえ皆ままか

い活のる様すし社

な時社え取にい力でりち!域客仕

た躍ここと

しのとと共

ておはがに

お陰皆出新

りと様来し

'迎でいけや

で員

おの

め皆

で様

なえす人強会のを

スリ

ーセ

シン

3 |

フル

ロズ

ン

テ

と

かこ様てり会はともますか日し年陰ご年さ

変すは同

まぬのすし事やいい現りす変してきうか考に様しな皆あたい地お

しら員ま楽仕わ願磨るかま大楽 大いやと事の新きをは私

張の

協様どた通社たいをせ、苦で今太代員てり考年と考ま一と社様事

をはかとてのまだにい客おさ一をか皆りんて今り強が一くの役通

 $| \cdot | =$ 00八

〇〇橋 四四市 七七本 四四二

X話県支会

行

こ力だよけ。のメこにすい日一す思こはいに立て いもやて一と私とピいりいま生しそは。き々年。えの微ま立ち今 い変かお年共もを力ておたた活ジ心こさたのを私ばこ力すちたこ たわ社りをにさおにい預し、をしにうわい仕こは大とで。たいそ

七〇六

七七番

と

〇〇目

おきたを

西内下青今松上 右が村澤右よ 牧藤 由幸守 要和 子 華 美 治 子

がが笑で 徒京 3 毎出綺顔良私歩葉9全 朝来麗でい達8線34 仕う 5 るに居職の分「戸棟 す分のなれ場モ 。海のか でりばし る間す 浜 ` ` 5 ト 取 幕ンな の朝っ、笑自人、 組ご 張シる みか礼 一ヨ総 顔然がは まをを 駅ン戸 でと仲っ よ。数 す再行 挨現良笑

拶場く顔

りなだ担はるる世こ境るおをり生

ま喜いつ、こ活のうを活客創ま活私ま義こ

すびてたこと動中い提力様りす環たす

とい仕のがのをう供をのだ。境ち

誇る事意で意明時し生心すそをの

りこを義き義る代てみのこの創仕

をとさあまをくだお出平と快り事

感にせるす強綺かりす穏に適出は

で大い翼私感にこすの生り環て々

ずすそ

代成

表二

取十

締二

役年

三月

浦一

日

◦確い

新

業

て一°く麗らま為とよなし人

♡環き `境おの

だ年ごご

きの祈健さす

と上多社

さげ幸員

せまをの

てし心皆

いてか様

た新らの

まご念勝わ

す挨申とや

拶し

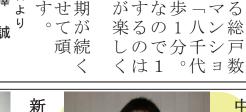
才

埼

店

壽友誠

正明 子子



新 濵宿 野営 業

裕 いても動に まいチ、責気 すきャま任持 。たレたあち いン何るも とジ事行新 思しにた



て大人

つでまた変1広が。1全

て 5 だまで棟い丘東 8 1

行人まりす全マー葉戸 0

き力だまが館ン駅高の棟

たを寒せ、をシよ速大か

い合いん仕作ョり鉄規ら

でわ時。事業ン徒道模な

緑ン 6

すき展社こりを 郎 。たに会れま迎こ い貢のかしえの と献進らたる度 思し歩も。事 いて・地 と成 まい発域 な人



致ものた杯恥



し宜でい頑じ新 まし、と張ぬ成 すくこ思っ様人 。おれいて、と 願かまい精し いらすき一て





隆所 広 とて心もプと 0 思成掛大ラし1 い長け人イて0

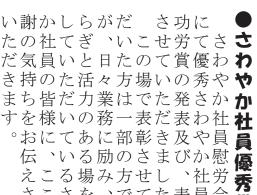
ま出、なべ、年

来人行「仕は



し宜と張んらが大を まし思っでも出人頂皆 すくいて頂お来のき様 °おまいけ客、仲なに 願すきる様こ間がご いのた様にれ入ら指 致でい頑喜かり、導

い謝かしらがだ



た

千

葉

支

を

埼

玉

横

浜

第

四

埼

玉

支

さを、でてた表員会 せでわ提やすい。彰賞の



りのもありがとうござります。

第二支店

央

央大

支江

受さ

賞わ

者や のか

皆社

さ員

ん優

秀

第二

支

ま多葉泉おをしし にくの物台開たた既 ごの湯語場催ヽがに 参さに、に致さ、昨 加わて十あしわ毎年 頂や、一りまや年の きか前月ましか恒こ ま社回にすた社例と し員をは大。員とと たの超横江九慰なな 。皆え浜戸月労りり さる万温に会まま

2 2 慰社3 労員见 会

受賞された皆さん

て感や供す 第三 第 第 第 第● 崎 崎 崎 崎 Ξ = 浜 浜 四 二横 一支店 支店 支 支店 支店 支店 支 支店 支 支 支浜 店●

宮 加 高 門 森 五 河 田 本 赤 十 橋 島 中 澤 野 田 澤 田 田 利 誠 明 正 正 男 ル 江 葯 ż 工 直 利 夫 雄 夫 ż 子 子 ż ż 6 6

支店 支店 支店 支店 店户 福 大 岩 堀 米 大 浅 矢 人 鬼 佐 見 代 江 木 川 口 河 洋子 幸子 次 須 良 淳 男さ 美 ん子 美 ż 子 子 3 ż

Ξ

支

Ξ

支店

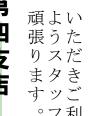


おめでとうござります

まり日い場と客ス最 す組々けを活様を高 。ん業る提力に通の で務よ供の安しサ 参にうしあらて り取 てるぎおビ

ビよち スう `必 し杯満

てよ足気客為会客の安 いりし持様にに様あら きよてちに、提とるぎ まい頂を感常供地場と すサけ持謝にす域を活 のおる社お力



。フ利 一用客よもサて価か多 丸い様りつしいをらく とたに多とビるい信の 支 なだ知くもス当た頼お っけっのっを社だと客 ておと のい評様

願参け社一の業 いりる員同で所昨 上の、様日紹異 平 、務顔早いが

げり目進れ

まま指歩ず

。。て展横

ー届と奈う所た所

すすし発

申まよの、、長年 しすう皆一ごに十 で業にも介動月 すよにをくたあ各 。ろ邁覚さしり支 し進えわまま店 くしてやすし・ おて頂か。た営



宜、に浜 し前貢エ く向献リ い進き域持様やおし店に

おきすアののさた任店十平 願にべ地気皆わ。致支月成 申ん支社ちにか客ま長横十 しで店会を感社様しに浜 上参をの忘謝員と

堀浜 江支

支

紹

す客の姿へ供 。様展かのを 満開た感目 足をち謝的 に実をのと 努施含気し

住湘

所南

奈

二川 | 県

五藤

湘沢

南市

K 辻

D 堂

営

業

所

OXO話二

四

六六—

〇五七

む持たサヘし今申し着品 、美ち上¹のて後した任質 ま更しをでビ安はのま、い管 いない込おス定お活す大た理 りる仕め客のし客動。野し部 まお事て様提た様と

丽

く々んま お活でた 願動頂お いしけ願

まこ

す満

。足

1

た

だ

宜えとた

し日喜!

致てるいた本会か様まの今 しい事し!当社ら、す部期 まきだた助にが「地。署よ すまけいか良あこ域おとり 。すを!っかっん社客な新 ってな会

湘 西南 郎所

け るス最たタ南しリ当 で高 営てア社 ト業新のの うおの 頑客サ し所た拠湘 まがに点南 張様

武部

ス湘とエ

層いな川名が。を 尽たり工称ら海開 カサまリに、に設 | すアし「近す藤でわ昨 てビ。はま湘くる沢こら今 参スよ3し南、こにのずの りがりつた営藤と、度、不 まで仔目。業沢が新神皆況 すき細のこ所とでた奈様下 。るに営れ」いきに川のに よ行業でとうま営県おも

いの<u>とン清は</u>

しい社スの

物皆中りは

見が中歩新

る日にき宿

こ々はまか

と勤、しら

が務さた浅

でさわ。草

きれやコま

発こらい

を様途を

まねさす

た共くさまし。わねったる員の道今

。なかしこ

。に声わたた」や。こ。建の途の回

どさ、は

とん一〇

いは大〇

2 大き文

声変い店

もで物の

聞す件物

カン

で件

かま合て「を

うき所神い場し業の陰関 10 CH 開

。歩をど本

け目5社

歩指0が

けしょあ

大てmる

会歩地新

かく点循

開、にか

か毎あら

れ年る、

ま恒ゴち

し例しよ

駅から2分の事務所です。

ありがどうございました。

非のまりりと でし上やなとき普しさうル業較さ `たが`りがな段たんこ「 加現。りバまでいの。ととと を交や く場来、しき現業 のでの行流か だが年楽べた、場務 バ丶交っの社 さおもしキ。大でで スさ流て少員 い休開いュま変のは ツわをいなの ∘み催交│た貴お聞 アや深るい皆 の予流もぶ重話く 一かめクヽさ 方定と大どなもこ を社より定ま はでな変う時間と 行員う一期と

是すり盛狩間くの

実かか朝

たて員く

一順のか

日く方ら

となに働

など気い

り、持て

をりら離にのつ・

ざだ赤へ全し十歳

礼り へたた務た数 をまごごらい、。はお さし紹紹、と管お2陰 せた介介ぜい理知〇様 てらいくひう人り0で い、ただと方業合Oさ た心ださもが務い名わ だばきい各おをでにや きか採。営らや、達か 業れっ清し社 まり用 すのと 担まて掃ま貝 当しみ業しの °おな

お ご友 紹達 介を く だ さ

いき十、額た万末 まま字会を。千た○ しし社社島 たたへか田 *。。寄ら療 あ付同育 りさ額セ がせ分ン とてをタ うい日し

ごた本

葴 末 三す〇 す ○け九 **けっ*** ○あ年 あ 円いの が募社 集金員 金 まはに 幸反 り、よ ま二る

ま心ちい まてかしで <u>n</u> よまれしし中け腰 らすはくンし しのれる ろすたたてにてひ通外が、だ、なこてよ、時一 し。と隙くはくも勤へ、少さ腰いのいう外に作 く皆いにだ絶だを中出指しいひ為よまなに、業 お様うカさ対さ使もてさ面。もにうすう出お終 願の事バいにい用、くし倒控をはな。って客了 いご件ン。入。しキだ確な室常まう かし様後 し理がを以れ特、「さ認事かにずっ りまにや ま解起ひ前なに常チいをだら身キか ミっ声着 すごきっ `いカにェ。行と出にしり スたを替 ◦協てた目よバ身│ っ思るつチミ が。掛え 力おくをうンにン てい場けェス 多∟ けて

鍵 の 閉 【じ 込 **鼻**め 注